



とぎのこえ Good News for Japan

命より大切なもの



太田 晴久

この夏、家族で「富弘美術館」に行つて来ました。星野富弘さんは中学校の体育の教師で、クラブ活動の指導中に頸椎を損傷し、手足の自由を失いました。群馬大学医学部附属病院に入院中、口に筆をくわえて文字や絵を描き始めました。友人が病室に持つて来た一

冊の聖書を読み、
「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとにきなさい。休ませてあげよう」(マタイによる福音書11章28節)
の御言葉に出会い、クリスチャンになりました。星野富弘さんの詩と絵は多くの人に感動を与え、ま

東日本大震災では、一瞬にして地震と津波で多くの尊い命が失われました。今も心の傷がいやされないで過ごしている方がたくさんおられます。わたしが現在働きを進めている関東東北地区の救世軍は、東日本大震災の発生後から継続して、岩手県大船渡の仮設住宅で支援活動をおこなっています。ある

この詩を書いて以来、「いのちより大切なものとは何ですか」と星野さんは言っています。しかし、東日本大震災以降、この質問をされる方がほとんどいなくなったということです。

いのちが一番大切だと思っていたころ
生きるのが
苦しかった
いのちより
大切なものが
あると知った日
生きているのが
嬉しかった

た生きる勇氣と力を与えています。その中に「いのちより大切なもの」という詩があります。

時、支援チームが訪ねているいろいろな話をしていると、「雑談はほかでもできるから、法話をしてください」と言われたそうです。そこで、旧約聖書の詩編二三編を読み、
「羊飼いが羊を大切にするように、神様は私たち一人ひとりを心にかけて愛してください」
というメッセージ(法話ではなく、キリスト教の話を伝えるたこのことです。

普通、わたしたちは命より大切なものはない、と考えます。命が一番大切であつて、そのためにわたしたちは生きているのだ、と。しかし、その命はなんと、はかないものでしょうか。先に記した美術館で、星野富弘さんの詩と絵が描かれている有田焼のコーヒークップを買いました。しかし翌日、食器棚の中で倒れて、持つ所が少し欠けてしまいました。記念の思い出として大切に使おうと思つていた矢先でした。聖書は、「わたしたちは「土の器」であると教えて

います。もちろん、弱く、壊れやすい存在。しかし同時に、「土の器の中に宝を持っている」とも教えています。この宝こそ「命より大切なもの」なのです。聖書では、これを、イエス・キリストを信じることによりいただける「永遠の命」であると言っています。

神様は、わたしたち一人ひとりを心にかけて、愛するあまり、わたしたちの身代わりに、独り子イエス・キリストを十字架につけて、わたしたちの罪を赦してくださいました。罪によつて滅びるばかりだったわたしたちが、生きている時も肉体の死の後、変わらずに希望と喜びをいただくことができるようにされたのです。このことを信じるなら、だれでもこの宝——「命より大切なもの」——「永遠の命」をいただくことができるのです。

一人でも多くの方が、「命より大切なもの」を、得ることができるよう、お祈りいたします。

(救世軍士官(伝道者))

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。

一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

〈信仰の体験談〉

神様は私専用の 道を与えてくださる



こがわ めぐみ
古川 恵美

曾祖父の信仰

私の信仰の始まりは、母方

今年の六月、私はニューヨークの首都ウエリントンにある、救世軍ウエリントン市小隊教会にあたる「の聖別会（日曜日の礼拝）」で、壇上に立っていました。必死に英単語を並べ、今年の十一月、この小隊所属のブラスバンド「ウエリントン・シタデル・バンド」四度目の日本ツアーへの期待と感謝、そして、私の想像をはるかに超えた神様の計画と導きによって今があることへの感謝を、証していました。

の曾祖父にありました。曾祖父は、クリスチャンがまだまだ耶穌と呼ばれていた田舎で、自宅の仏壇を崖から海に投げ捨てたほどの劇的な人生の変化を経験した人物です。この曾祖父の感化によって孫である私の母が信仰をもち、その母と結婚した父が、徐々に信仰に導かれていったのです。

抱っこするのが常で、その時祈ってくれていたのだろう、と母から何度か聞かされてきました。今思うと、姉のみならず、まだ見ぬ私のためにも祈ってくれていたその祈りが今も聞かれ続けている、と確信しています。なぜなら、私のこれまでの半生を振り返ってみると、そうとしか思えないことばかりなのです。

父との別れ

私は小・中学生の頃は日曜



曾祖父・前田 貞美

学校に通っていましたが、その後十五年ほど小隊から離れていま

た。しかし不思議と、そんな時でも、神様がいつも私を見ていてくださることを否定することはありませんでした。私が大学四年の時、体が丈夫だった父に、かなり進行した癌が見つかりました。九カ月の入院生活の後、最後の一カ月を、父は救世軍清瀬病院ホスピス病棟で過ごさせていただきました。そこは、当時私たちが住んでいた家から自転車で行ける近さでしたから、すでに一年近く、毎日父に寄り添っていた母の体力や精神面も守られていました。また、病院のすぐ近くには父が尊敬していた救世軍の伝道者が住んでいて、毎日のように父の脚をさすってくださり、父はとてもうれしそうでした。父のこの世で最後の時、姉一家はお見舞いに来る予定ではありませんでしたが、たまに休みがとれたということと、来ていました。そのため、私たち家族全員で父を天に送ることができました。父は、亡くなる直前、母には「ありがとう!」私には「イエス様!」と聞こえる言葉を残し、天に

召されました。

小隊につながるきっかけ

私が社会人になって七年ほど経った頃のことです。上司と合わず、精神的に辛い時期が続いたことがありました。本当に辛くて毎日泣いていましたし、当時は笑うことができなくなっていました。

その辛い思いがまだ癒えきれていない頃、足が遠のいていた渋谷小隊のブラスバンドの楽長が、合宿に参加しないかと声をかけてくださったのです。これまでも時折誘っていたいてはいたのですが、何となく断っていました。しかし、この時は自然と参加することができました。ただし、私はラップを吹けませんでしたが、必然的に打楽器を担当することになりました。

この合宿以降、聖別会での演奏や歌の伴奏の他、特別集会などで小隊以外の所で演奏する機会も数多く与えられました。この頃、自分に役割があることがうれしかったことを覚えています。こうして、ブラスバンドの一員になったことで、小隊につながるようになりました。

ツアースタッフ

二〇〇七年十一月、先に記しましたウエリントン・シタデル・バンド(WCB)の三度

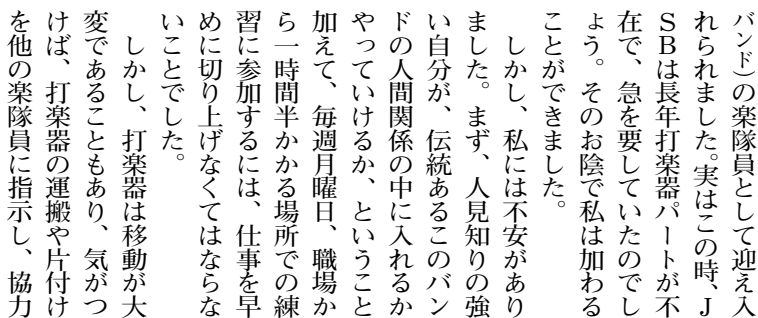


WCBの女性楽隊員と

目の来日ツアーがありました。その時私は、ツアー同行スタッフに加わらないか、と声をかけられたのです。ツアーは十一日間です。十一日も仕事を休むことは難しいのが普通です。ところが当時の仕事は出張が多く、代休が何日も溜まっており、しかも、ツアーの頃は、ちょうど出張が落ち着く時期にも重なっていました。そして何と言っても、同僚が私の休暇を理解してくれたお陰で、ツアースタッフとして奉仕することができました。WCBメンバーのコンサートに取り組む姿勢や、聴きに來てくださった方々と積極的に触れ合う様子を見て、彼らが伝道のために用いられていることを目の当たりにしました。

ジャパン・スタッフ・バンドの一員となつて

彼らを成田空港から見送った翌年の夏、私はジャパン・スタッフ・バンド(JSB/日本の救世軍本部に所属するブラス



ジャパン・スタッフ・バンド(2011年・英国訪問当時、最後列右端)

ところが、その英国での集会の二カ月前の三月十一日、東日本大震災が起きました。JSBは参加できないのではないかと、思われたりもしましたが、神様のお導きの中、多くの人々の祈りと支援によって、予定どおりに参加することができました。

会場のロイヤル・アルバー
ト・ホールでは、私たちJSBは、世界中から集まった聴衆や他のスタッフ・バンド楽隊員たちから、日本中の人々への応援を表現したスタンディングオベーションで迎えられました。驚きと感謝の時

してもらっていました。また仕事を早く切り上げなければならぬことも、職場の同僚のみならず、経営者の理解までいただくことができ、毎週の練習に参加することができました。

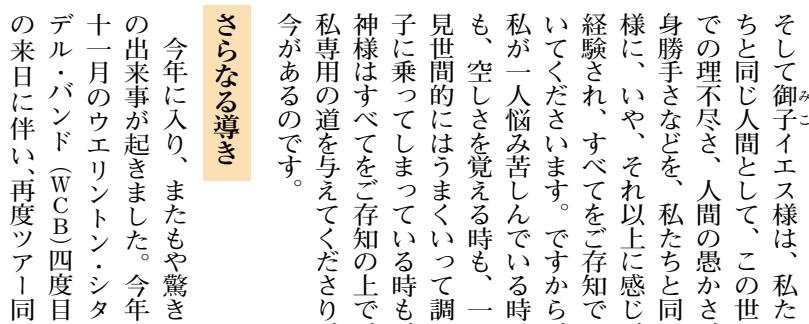
演奏や、バックingham宮殿へのマーチングや宮殿前庭での演奏など、世界中の救世軍に属する人々と共に神様を賛美する機会が与えられました。

この時は二週間のツアーでしたが、またしても休暇をとることができました。仕事で大きな部署異動直後だったことと、まだ慣れていない同僚たちの理解も得ることができたという、信じられない幸運が重なったのでした。帰国後二年間、同じ職場におりましたが、職場の人たちは引き続き私のJSB楽隊員としての奉仕を応援し、コンサートにも来てくださいました。

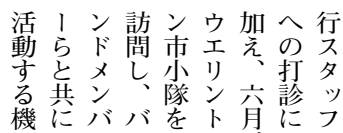
振り返ってみれば、ここに至るまで、私の想像をはるかに超えた導きばかりでした。私自身の努力や行動でどうにかなるような範疇をはるかに超えていました。

すべてを「ご存知の神様」

聖書には、人間の弱さ、傲慢さ、理屈通りにはいかない一見不公平とさえ思えるような状況におかれることがあるなど、私たちが日常感じたり悩んだりすることが随所に記されています。これは、神様が私たち一人ひとりの心の奥底の思いや叫び、私たちを取り巻く環境のことなど、すべてを「ご存知だ」ということで



そして御子イエス様は、私たちと同じ人間として、この世での理不尽さ、人間の愚かさ、身勝手さなどを、私たちと同様に、いや、それ以上に感じ経験され、すべてをご存知でいてくださいます。ですから私が一人悩み苦しんでいる時も、空しさを覚える時も、一見世間的にはうまくいって調子に乗ってしまった時も神様はすべてをご存知の上で私専用の道を与えてくださり今があるのです。



「何事にも時があり 天
の下の出来事にはすべて定
められた時がある」(コヘレ
トの言葉3章1節)
を与えられたことを改めて感
謝しています。私が、今、神
様を宣べ伝える働きに携わる
ことができているのは、何度
も良い機会が備えられ、その
折々に周りの理解や協力を得
られてきたからです。

これは、曾祖父の祈りや、私を幼い頃からずっと見守って祈ってくださっている渋谷小隊の皆さん、J S B の働きのために祈ってくださっている

る皆さんのほか、私の知らない、気づいていない所での陰の祈りの支えがあるからです。そして何より、私のことをすべてご存知の神様が、私を常に導いてくださっているからです。幼い頃、人見知り過ぎて、夏休みに田舎へ行くと手で顔を隠していたような私が、日本のみならず、世界の人々と共に神様を喜んで賛美することができるよう導かれていることに、感謝しています。

私は今、聖書の言葉

〔渋谷小隊〕教会所属

□私の近くの救世軍を紹介してください。
□キリスト教についてもっと知りたいです
□『ときのこえ』の購読を申し込みます。

ご氏名

ご住所

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。



世界をみつめて

〈イギリス〉オープン・ハウス・ロンドン

ロンドンでは、毎年 9 月に「オープン・ハウス・ロンドン」という建築物公開イベントがおこなわれます。今年の日程は 9 月 21 日 (土)、22 日 (日) で、普段は非公開のものも含めて、800 以上の公共と民間の建築物が一般に公開されます。

救世軍国際本部の建物も 9 月 21 日のみ、10 時から午後 5 時まで公開されました。現在の建物は、1881 年、この場所に最初の本部が建てられて以来 3 度目に建て替えられたものです。シェパード・ロブソン氏の設計によるもので、全面ガラス張りの近代的な建物です。



この日一日、大勢の人が、カフェでの飲食をはじめ、ギャラリーでの様々な資料の閲覧、祈祷室や世界の救世軍の指導者アンドレ・コックス大将のオフィスなどを、自由に見学しました。また、印刷物の提供や国際本部のスタッフによる救世軍の歴史や働きを紹介がなされ、本部前では午前と午後、それぞれ 2 つの小隊 (教会) 付属のブラスバンドによる演奏がおこなわれました。

〈日本〉東日本大震災被災地復興支援リポート (続)

8 月に、宮城県南三陸町では「南三陸さんさん商店街」の目の前にポータルセンター (仮設大型テント・多目的ホール) が完成し、オープニング・セレモニーがおこなわれました。建設の支援をした救世軍からも代表者が出席し、挨拶をしました。さっそく地元のイベントに利用されています。



オープンしたポータルセンター

これに先立ち、救世軍の青年のグループが南三陸町を訪れ、被災地の見学と研修の機会をもちました。今も残る震災の爪痕^{つめあと}を実際に見、救世軍が支援をしてきた場所を回り、「南三陸さんさん商店街」のフードコート前で子ども会を開きました。楽しい音楽の演奏を聞いたり、いろいろなゲームと一緒にしながら、集まった子どもたちと良い交流の時を過ごしました。



いろいろなゲームを用意

9 月には、関東東北チームが岩手県大船渡市の仮設住宅を訪問し、敬老のお祝いの集会や子ども会をおこない、交流をしました。

竜巻被災者支援リポート

9 月 2 日午後 2 時過ぎ、竜巻が発生し、埼玉県越谷市と千葉県野田市の住宅街を襲い、70 人近い負傷者と 500 棟を超える建物が被害を被りました。翌日、救世軍は現地に調査隊を派遣し、必要な支援について情報収集をしました。4 日、支援物資をワゴン車 2 台に積み、被害の大きかった下間久里・新方・大杉・大袋地区を視察、大杉地区から支援を開始しました。約 160 世帯に、お茶 (ペットボトル)・軍手・タオル等を合計 240 組、提供しました。



大杉地区では、被災状況が激しいにもかかわらず、「お茶 1 本も初めての支援品です」との声が何度も聞かれ、電気の復旧工事が随所でおこなわれる中、持参した冷たい飲料が喜ばれました。



暑い中で後片付けをされている方々に、話を聞きながら、支援品を渡した

救世軍とは

The Salvation Army

イギリスに本部を置く、世界百二十六の国と地域で活動する国際的なキリスト教会 (プロテスタント) です。

特色は、物心両面から人々の必要に応じて神の愛を伝え、必要に応じて神の愛を伝えること、その働きを迅速に効率よく推し進めるために軍隊流の組織をとっていること、また、信じる人は即座に救われ、きよい生活を送ることができると信じていることです。一八六五年の創立当初から、アルコールで苦しむ人々の支援をしているため、信徒はアルコール抜きのライフスタイルをとっています。救世軍が活動している国と地域、どこにおいても、地震、津波、洪水、山火事などの被災者に対する支援・復興支援活動、街頭生活者への支援などをおこなっています。近年では国際規模で、これら困難を覚えている人々や地域の必要に応じています。また、開発途上国における教育、医療、自立支援、人身売買阻止などの活動もおこなっています。日本での働きは一八九五 (明治 28) 年に始まり、廃娼運動による婦人保護や、結核療養所開設など、社会福祉事業、医療事業におけるパイオニア的な働きを担ってきました。現在は、四十五の小隊 (教会にあたる) と十一の分隊 (伝道所にあたる) 二十の社会福祉施設と二つの病院 (ホスピス併設) を通じて働きを進めています。

ウェリントン・シタデル・バンド 日本公演案内



ニュージーランド・ウェリントン市小隊 (教会) 所属のブラスバンドで、今年、四度目の来日となります。今回は、左記の日程の他、東北被災地を訪問しての演奏もおこないます。

11月19日 (火) 全席 千円

浜松公演 午後七時開演

浜松市 アクアシティ中ホール

お問い合わせ...

浜松ブラスバンド

23日 (土)

大人 千円

子供 五百円

宇都宮公演

午後一時半開演

宇都宮市 ちぎぎ青少年センター (アミックス)

お問い合わせ...

栃木県ブラスバンド研究会

Tel. 〇二八・六五三・三九九九

24日 (日) 無料

東京・連合聖別会 (礼拝)

東京・千代田区一ツ橋ホール

(日本教育会館三階)

25日 (月)

東京公演 午後七時開演

杉並区・荻窪 杉並公会堂

S 三千円、A 二千円 (指定席)

お問い合わせ...

WCB 招聘事務局

Tel. 〇三・三三三・〇八八一

26日 (火) 無料

社会鍋とカール「WCB. プロムナードコンサート」

東京・池袋 サンシャインシティ

専門店街アルパ地下一階噴水広場

●詳細は、

救世軍本営 WCB 招聘事務局まで

http://www.salvationarmy.or.jp

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

発行日 毎月一日・十五日

定価 一日号 一部五〇円 (千六〇円)

十五日号 一部六〇円 (千六〇円)

クリスマス特集号 (十二月一日号)

一部一〇〇円 (千六八円)

一年分 二七〇円 (送料七二八円)

振替 〇〇一八〇五五四四〇〇

発行兼 救世軍

印刷人 代表者 勝地 次郎

編集人 齋藤 恵子

〒101-0051 東京都千代田区

電話 東京 (03) 三三七〇八八一

発行所 救世軍本営

印刷所 図書印刷株式会社